

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ

ファイセック

# FICEC

発行

ふじみの国際交流センター

Fujimino International Cultural Exchange Center

2007年 2月号(隔月刊) 第89号



ちょっと遅くなりましたが……

## 第3回「子どもとともに育つ親の会」 クリスマスツリーを創る



子どもたちが自分で作った帽子 ↑ ↓ ツリーを絵の具で塗る

「子どもとともに育つ親の会」3回目のイベントは、昨年12月7日に『親子合作 de クリスマス!』と題してみんなで大きなクリスマスツリーの制作をしました。はじめにお伝えしますが、今回も大成功!

大きなガラス張りの暖かな部屋で始まったイベントの最初は、子どもたちによるツリーの色塗り。まだ幼稚園などに入園する前の小さな子ばかりでしたが、手足を緑色に染めながらも、大きな白い紙をあっという間に立派なツリーに仕上げてくれました。

その後は金銀のシールを貼る帽子づくり。はじめはシールを台紙から上手く剥がせなかった子ども、だんだん上手になって最後にはひとりで貼れるようになり、素敵な帽子を作ることができました。

実は、今回の帽子づくりでは、子どもたちに3つの小さな課題を設定していました。それは、自分

で「シールちょうだい」と貰いに行く(最初に全部配らずに、足りないときは声をかけてもらうようにした)、自分でシールの色を選ぶ、貼る数や場所は自分で決める(「この辺に貼ったら?」などは言わない)、です。決められたことを決められた通りにやることももちろん大切だけれど、子どもたちには「自分で考えて決める」という機会を多く与えてあげたいな、と思っているので今回はこのような事やってみました。自分で考えて作った帽子を身につけた子どもたちは、誇らしげにお母さんに見せに行っていました。

一方お母さんたちはといえば、子どもたちに負けず劣らず夢中で飾りづくり。「そろそろ終わりにしてください」というスタッフの声も耳に入らない様子で、帽子を作り終えた子どもと一緒に楽しそうに手を動かしている姿を見て、「いい



↓ やっぱ、新聞遊びが楽しいぜい



なあ、これだよなあ」と嬉しくなりました。それは、この会のテーマのひとつ「親が子どもと一緒に真剣に遊ぶ」がまさに実践されている場面でした。

今後も「子どもとともに育つ親の会」という名前のもと、子どもたちと楽しく遊びながら親が色々なことを体験し、気づき、成長する場になるように、試行錯誤を続けていこうと思っています。

(文：高橋恭子、写真：内藤忍)

## 生活相談のための研修会、勉強会などを開催

## 外国籍市民の相談に、よりの的確に対応するため 県との協働による研修会や、参加自由の勉強会

### ●年間500件にもおよぶ 生活相談

ふじみの国際交流センター（FICEC）では、地域に住む外国籍市民のための自立を支援する活動をしているが、そのひとつの核になるのが「生活相談」の活動。外国から日本に来た人たちにとっては、日本の法律などの制度がわからない場合が多いし、近隣住民など他人とばかりでなく、日本人の家族とのトラブルが起きることもある。そうしたことが起きたら、日本人であれば親類縁者や、近くに住む友人などに相談し、助力を頼むこともできるが、外国から来た人たちにとっては、助けてくれる人が日本にはいないという場合も多い。そんなとき、同じ地域に住む隣人として、日本での生活がスムーズにできるように協力しようというのが、生活相談の活動だ。FICECには、年間500件にもおよぶ相談が寄せられており、女性を中心とするボランティアスタッフが、日常的に相談に対応している。

### ●相談の質を向上させるため 研修会などを開催

しかし、一口に「相談」といっても、その内容は千差万別。「ごみの出し方」「医者へのかかり方」といった、ごく生活レベルのものから、「住民登録」「外国人登録」といった法律的な内容を含むもの、そして「夫が暴力を振るうので子どもと逃げ出してきた」などという、かなり深刻なものまで、さまざまな相談が寄せられる。スタッフは、本当に近隣の主婦を中心とした人たちだけに、どんなアドバイスをしたらよいのか、迷ってしまうことも



しばしば。もちろん、相談への対応は、FICECの中で担当者同士が相談しながら行っているが、それでも専門知識が必要な場合もある。

そこで、FICECでは、さまざまな機会を利用して、スタッフのレベルアップのための研修会などを積極的に開催している。

### ●「DV被害者支援ボランティア育成講座」の開催

近年、日本の家族関係の中で大きな問題になっているのがドメスティック・バイオレンス（DV＝家庭内暴力）。主として、夫が妻や子どもに対して暴力を振るって従わせるというものだ。埼玉県が2003年に行った実態調査では、結婚経験を持つ女性の16人に1人が「命の危険を感じるほどの暴力を受けた経験」を持ち、31.2%の子どもが親の被害を目撃している。被害者は、主として女性や子ども。日本人同士の家庭でも多くなっていると同時に、FICECには日本人男性と国際結婚した外国人女性からの相談も、多数寄せられている。

そこで、FICECが埼玉県からの助成・委託を



受けて開催しているのが「DV 被害者支援ボランティア育成講座」だ。日本人、外国人を問わず、DV 被害を受けた人たちを支援するためのボランティア人材を育成しようという事業。

2005年9月～10月に5回からなる講座を開いたほか、2006年10月～11月には2回目となる5回の講座、さらには今年1月～2月にも2回からなる講座を開いたばかりだ（各回の詳しい内容は、FICECのホームページに掲載）。

それぞれの講師は、弁護士や大学教授、県婦人相談センター関係者など専門家で、FICECスタッフも事例研究のためのグループワークのスタッフとして運営にたずさわっている。参加者数は各回15人～37人で、主として近隣の主婦など女性だが、いずれも夫などによる暴力をどう防いだらよいか、被害者をどう支援したらよいかについて、熱心に聴講し、議論に加わっている。

## ●自主的な勉強会も 毎月開催＝参加自由

こうした、自治体との協働による研修会以外に、FICECではスタッフによる自主的な勉強会（参加自由）なども、毎月第一火曜日（原則）の午前中に開催されている。行政書士やソーシャルワーカーなど専門家を招いて、民法、戸籍法、国籍法、外国人登録法など関係する法律や手続きの勉強ばかりでなく、実際にあった相談事例についてどのように対応したらよいかといった、ケーススタディも行われている。

## ●とにかく早め早めに 相談を＝東京入管担当者

今年1月9日には、東京入国管理局から担当者を招いての勉強会も行われた。出席したのは渉外調整官の有馬義信さん。FICECから同局には、日常的に外国籍の人たちについての相談をしていることから、その縁で外国人登録に関する制度、手続きの説明のために出席が実現したものだ。



有馬さんは、約2時間にわたり、日本の入管手続きの具体的な内容、外国籍市民にどう対応することを期待するかなどについて熱心に説明。さらに、当日FICECに来ていた相談者の事例に対しても、具体的なアドバイスなどをしていった。

有馬さんが特に強調していたのは、「入国管理の事柄について何か問題が起きたら、できるだけ早く入管に相談をしてほしい」という点。「不法滞在などは、放置しておく事態がますます悪くなるし、帰国後の再入国なども困難になる。何か問題があっても、解決につながる方法論などは必ずあるはずだから、『行けば強制送還される』などと悪い方にばかり考えないで、とにかく早め、早めに相談をしてほしい」と話していた。（取材・文：内藤忍）

FICECでのこうした勉強会は、日程さえ合えば参加は自由。これを読んでいる読者の中でも、関心を持っている方は、ぜひご参加ください。

## FICEC の「国際子どもクラブ」に参加

### 一步を踏み出してボランティア活動

### 子どもたちとともに、自分自身も成長を実感

文・上原 美樹

ふじみの国際交流センター（FICEC）の「国際子どもクラブ」に通い始めて、ちょうど1年。皆勤賞にはとても届かないが、半分以上の土曜日は、ここに来ている。ここで見たこと聞いたこと、感じたことなどを書いてみたい。

## 意を決して 飛び込んでみた

まずは、簡単に自己紹介から。32歳、既婚（5年目）、子どもなし。平日は派遣社員として働いている。20代は就職や結婚、転居など目の前のことをしているだけで、あっという間に過ぎてしまった。30代になり、少しは生活も落ち着くと、「そういえば私って人と話すのが好きだな、教えるのも好きだな」などと思いながら、ひまにまかせてインターネット上をうろろうとしていた。そこで、FICECのホームページに出会った。FICECでは、「外国人への生活支援」を目的として、さまざまな活動を行っている。その中で私に出来るとしたら、国際子どもクラブで日本語や宿題を手伝うことだなどと思いながらも、その一方で私に出来るのか、そうした勉強をしたことはないし、上福岡の近くから所沢に引っ越したばかりだしなどと逡巡していた。しかし、決意して、そのドアを開いた。

## 最初はおろおろするばかり

「国際子どもクラブ」というのは、外国で育った外国籍の子どもたちに、日本語や日本の小学校、中学校などでの勉強を教える場。毎週土曜日の午前中にFICECで開催されている。

ここで、私が最初に出会ったのは、中国から来たばかりのA君（15歳）だ。日本語を話せる



教育熱心なお母さんと一緒に来ていた。A君は、日本に来たばかりで「あいうえお」もわからない。私は、どうコミュニケーションをとったらいいか、おろおろするばかり。そんな私の目の前では、子どもたちへの指導歴10年以上のスタッフKさんが、「ひらがなカード」といった指導ツールなどを使って、子どもたちの興味を引き出しながら進めていく。そして、1時間半の授業の後には、お茶を飲みながらのコミュニケーションの時間。A君に理解できる漢字や、電子辞書、地図、ボディランゲージ、表情などさまざまな道具を駆使して、中国や日本のことなどを話す。最初は、緊張気味だったA君も、日が経つにつれ、「眠い」などと、だんだんわがママが出るようになった。日本での生活に慣れるとともに、ここでの居心地がよくなってきたのだろう。同じく中国から来た、とっつても美人なBさんや、小学3年生のC君の登場も影響しているかも。とくに、C君にはお兄さんのように慕われている。

## 難しい日本語、 そして進歩の早さ

日本語の指導は、ひらがな、カタカナ、数字の読み方から始まる。「外国語としての日本語」に初めて触れた私は、「さんびやく」「よんひやく」「はっぴやく」など、普段は意識していない日本語の難しさに気づいた。A君に対しては、FICEC独自の絵を使ったテキストを終えると、「みんなの

日本語」という市販のテキストに移る。A君は、土曜日のFICECでの指導だけでなく、午後もほかの日本語教室に通い、平日はほぼ毎日1時間、授業中に別室で日本語を学習する「取り出し授業」を受けた。A君の家では日常生活も日本語を使っているのだから、驚くべき速度で日本語が上達していった。そして、1年もすると日常会話では困らないくらいになった。最初はおとなしなかったA君は、得意の卓球を始めたり、日本語が上達して冗談を言ったり、勉強を嫌がったりと、“ふつうの”中学生らしくなってきた。私の名古屋弁を指摘されたときなどは、憎らしかつたけれども、その進歩の早さに、私までうれしい思いが込み上げてきた。

## たくさんのスタッフに 支えられて

ある程度、日本語が話せるようになると、日本語の学習の代わりに学校での勉強を復習することもある。特に、定期試験の前だ。いくら日本語がわかるようになったといっても、外国で授業を受けているので、ついていくのがたいへんだ。しかし、この学校の勉強については、指導する私にとってもたいへんなことには変りがなかった。特に、苦手だった数学は、正直に言って問題を見る勇気もない。しかし大丈夫、ボランティアは



私だけではない。大学生も、高校教師もいる。小学校教師を勤め上げ、退職した女性をはじめ、心強いスタッフがたくさんいる。FICECの国際子どもクラブは、こうした多数の人によって支えられている。

日本語を学習しているのは、この3人だけではない。最近、アジアからの一家が加わった。なんと6人兄弟だ。3歳から中学生まで。小さな子は、集中力を持続させるのがたいへんだが、なんとか創意工夫をして取り組んでいきたいと思っている。

このFICECの狭い空間で、たった1年の間にもいろいろな成長があった。まずなにより、子どもたちの日本語の上達だということは、あえて言うまでもないだろう。いろいろな人や、出来事に触れ、私も少し成長できた気がする。日常生活から一歩踏み出す勇気を持ってよかった。2007年はどんな年になるのだろうと、楽しみだ。

## たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間(株)オムテック様、青峰社様、海老原夕美法律事務所様、東入間遊戯業防犯協力会様、国際ソロプチミスト様、カトリック上福岡教会様をはじめとして、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言っているかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後ともご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター (FICEC) 理事長 石井ナナエ

## どたばたレシピ 中国からの留学生が作る 上海風水餃子と春巻き



本誌の編集委員会には、何人かの中国人留学生の人たちが参加してくれているが、レシピ紹介の記事があるのを見て、その中の王祺さんと黄耀潤さん（いずれも上海出身）が「ぜひ、私たちも中国料理を紹介したい」と申し出てくれた。何でも、王祺さんの友人が東京で中華料理店のシェフをしているとのことで、その直伝の水餃子と、春巻きを作ってくれるという。さらに、それを手伝うのが、やはり編集委員の篠島幹昌さんと石原怜実さんだ。

さて、レシピ取材の当日は、台所もあるFICECの事務所に材料を持って集まり、調理過程をも記録することになっていたが、集まってみるとすでに餃子と春巻きの具は作ってあるという。ん？、だってそれを作る過程を記録したいんじゃない、と思ったが、ま

あ作ってしまったものは仕方がない、調理ではその具を皮で巻く作業から始まったのだ。

筆者も含めて、5人で和気あいあいと皮を巻いていたが、王祺さんが「あ、春巻きの具に味付けするのを忘れた」などと言いだした。おいおい、もう巻き始めているんだぜ。というわけで、塩、調味料のない具と、ある具とではどう違うかを食べ比べてみようなどと、残りの具に味付けをして作業は続行。まあ、そんなこんなで、みんなでドタバタとやりながらのレシピ取材となったのでした。

なお、下記に記載したレシピは、後で王祺さんが作り直して記録したものとのことで、「ゼッタイ、おいしいです」と保証付きであることを付記しておきます。

(文・写真：内藤忍)

### 料理の作り方

#### 水餃子

材料（いずれも適量）

- ・ひき肉
- ・冬瓜
- ・塩
- ・粉末状の鶏ガラスープ（右写真）
- ・万能ねぎ
- ・黒酢（つけて食べる）



#### 作り方

- ①冬瓜をゆでて冷やし、水を切って5センチくらいに切る。
- ②それにひき肉を混ぜ、塩、鶏ガラスープで味付けをする。
- ③具をギョーザの皮で包む。



みんなで餃子の皮を巻く

- ④鍋で水を沸騰させ、ギョーザを入れる。再び沸騰したときに、水を加える。ギョーザが浮かんでくるまでゆでる。

#### 春巻き

材料（いずれも適量）

- ・ひき肉
- ・白菜（千切り。できるだけ細かく）
- ・塩
- ・調味料（味の素など）
- ・コーンスターチ
- ・黒酢（つけて食べる）

#### 作り方

- ①ひき肉、白菜をいためる。塩、調味料で味付け。



春巻きの皮で具を巻く



中国の黒酢

- ②最後にコーンスターチを入れてとろみをつける。

- ③具を春巻きの皮に包む。

- ④油で揚げる。



王さん（左）と黄さん

## 生活相談の勉強会 ぜひご参加ください

毎月第一火曜日の10時から12時まで、生活相談の勉強会をしています。生活相談の難しい事例をあげてどのように対処したらいいのか話し合ったり、コーチングとカウンセリングの違い、例えばカウンセリングでは対象や目的が個人や個人の心理的平安で

あるのに対して、コーチングは個人だけではなく、組織や組織の業績向上も含まれるのだそうです。答えの所在はカウンセリングはカウンセラーの助言であるのに対して、コーチングは本人の気づきだとのこと。

性格判断をしたり楽しい勉強会です。1月9日には東京入管の有馬さんが来てくださいました。とてもお忙しい人なので、このようなことはあ

まりないんだそうですが、石井理事長の特別の依頼に応えてくださったようです。センターの皆さんの日々の活動を理解していただき、不可能が可能になりました。内容の濃いお話をたくさん聞くことができました。

生活相談スタッフを募集しています。そして勉強会にご参加ください、お待ちしております。(半田栄子)

2007年、「団塊の世代」700万人の大量退職が始まる。その名付け親である堺屋太一氏によると、この人たちは“日本産業株式会社”のエンジン役を果たしてきた世代である。人生80年時代、退職した人たちには、今後10万時間もの自由時間がある。

外国人の自立支援、多文化共生のまちづくりを目指し、スタートしたセンターも今年

## センターに “新エンジン”を

で仮オープンから10年。多くの人たちの支援とボランティアスタッフの努力により、民設民営の拠点はなんとか維持し続けてきた。しかし、設立当初からのスタッフの戦力も低下しつつあり、新戦力の補充も十分とは云えない。今

後、在日外国人の増加に伴う、多様なニーズに適応できるセンターを維持するには、より多くのボランティアの参加と、専門スタッフや組織的な活動をサポートするスタッフも求められる。

団塊の世代はこれらの役割を担ってくれる人材の宝庫であり、当面の課題は、誰もが参加しやすい環境を整備していくことだろう。(荒田光男)

夫とともにセンターの活動をはじめ、早くも10年が経とうとしています。はじめの頃、大きな目標に向かって、あらゆる活動が新鮮で、熱い思いで活動していたように思います。その後、夫が他界した後も、会計、翻訳、英語教室などでセンターの活動に携わってきましたが、ここ2、3年は初心の気持ちは何

処へやら、ただ仕事をこなしている自分に嫌気がさしてきました。こんなことでは他の人にも迷惑をかけると悶々としていました。

先日、品川にあるIWC (Interact with Community) 国際市民の会を訪問しました。充実している日本語教育支援の様子を見、また理事長のお話を聞くなど有意義な日

## 外の世界に 目を向けながら

を過ごして、いろいろ学ばせてもらいました。今まで、狭い地域で安穏と暮らして満足し、外に目を向けようとしなかった私に、夫がショック療法を与えてくれたのではないかと思います。(阿澄康子)

## センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

### ●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

### ●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
口座名：ふじみの国際交流センター

## ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

### ●2005年4月～（50音順・敬称略）

青木和雄、阿澄康子、穴沢エミリン、荒田光男、石井ナナエ、伊藤智明、伊藤真弓、いも煮会、岩田ひさよ、岩田仁、上島直美、エスコラピラス修道士会、江原工業、海老原夕美、遠藤宏子、大関優、太田原裕、小沢ビクトリア、小原富明、(株)オムテック、カクセイジョ、葛西敦子、加藤久美子、カトリック教会、金子朝子、金子忠弘、神田順子、金文玉、栗島三千代、候、国際ソロプチミスト、後藤泰博、サークルクムスタカ、庄子一雄、申常午、菅山修二、鈴木譲二、鈴木美佐子、高橋郁子、武田和子、田中正江、チョン玄淑、常西カツエ、デュオ、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、仲田京子、中村禎作、萩原千代子、橋本弘美、長谷川正江、羽石貴裕、羽石電気、東入間地区遊技業組合、広木加代子、藤林泰、三芳アジア友の会、百瀬滉、矢野やす子、山崎友理、若林祥文

### ●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

## ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ

<h3>日本語教室</h3> <p>「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。</p> <p>●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<h3>国際こどもクラブ</h3> <p>日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。</p> <p>●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<h3>パソコン教室</h3> <p>外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。</p> <p>●月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<h3>国際スポーツクラブ</h3> <p>上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。</p> <p>●毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<h3>中国語教室</h3> <p>学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。</p> <p>●毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<h3>韓国語教室</h3> <p>韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。</p> <p>●毎週月曜日 午前10時～12時 受講料：1回500円</p>	<h3>ポルトガル語教室</h3> <p>ブラジルで通訳の仕事をしての方が指導してくれています。</p> <p>●毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<h3>英語教室</h3> <p>初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。</p> <p>●毎週水曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円</p>

## 編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■今回は中国の水ぎょうざ、春巻きをとりあげました。とても賑やかで楽しい料理会になりました。日本だと醤油と酢をつけますが、中国の人は断然『黒酢』だそうです。私も何度か食べているうちに慣れてきました。やみつきになるかも。(篠島)

■取材を通して、人とのコミュニケーションの難しさを改めて実感します。こうしようと思っても、なかなか実際にはできないことも多いです。しかし、その中にあたた

かい出会いがあります。もともと話すことが得意ではない私ですが、一つひとつの出会いを大切に、自分なりに頑張っていると思っています。(石原)

■ハローフレンズに関わり始めて、2年目に入ります。一番の収穫は、たくさんの人に出会えたこと。今後も、さまざまな人に出会い、本誌を通じて、より多くの人に、FICECの魅力と在日外国人の現状を伝えたいと思います。(上原)

■本誌の印刷直前の2月4日に悲しい知らせが入りました。センターで、事務所の維持管理などの仕事を精力的に担われていた青木和雄さんが永眠されました。女性スタッフ主体のセンターで、裏方の力仕事はとにかく青木さんの役割でした。「もう年だよ」といいながら、せつせと、そしてこつこつと仕事をしている姿がもう見られないかと思うと、寂しさがつのります。ご冥福をお祈りします。(スタッフ一同)

## 編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）  
編集委員（50音順）：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、山崎友理

## 特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291  
生活相談専用電話: 049-269-6450